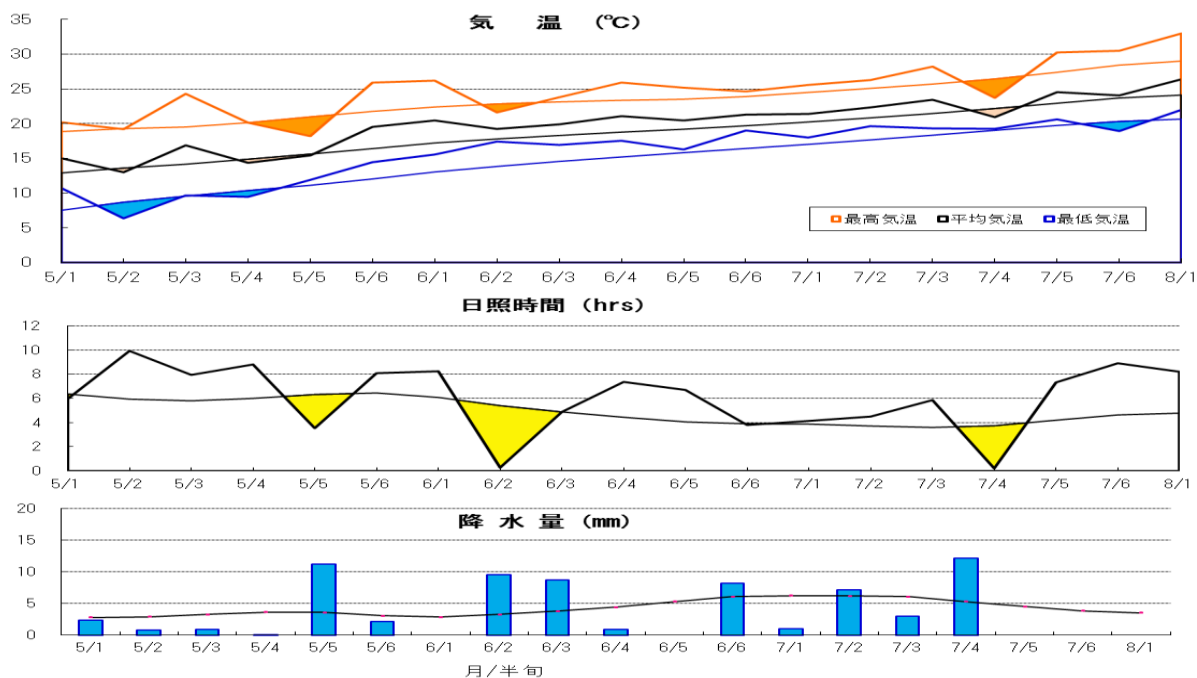


稲作情報 11 号

県内の出穂期は 8 月 2 日で平年より 5 日早い！！

1 気象経過



図－1 平成 26 年産水稻田植後の気象経過 (アメダス古川 半旬別)

- ・気温は、7 月第 4 半旬がやや低かったものの、高温に経過している。(7 月平年差 1.5℃)
- ・日照時間も同様に 18, 19 日少照だったものの、多照に経過している。(7 月平年比 133%)
- ・7 月の降水量は、平年比 69%と少雨となった。

2 今後の気象予報

(1) 1 か月の天候予報(8 月 2 日～9 月 1 日)

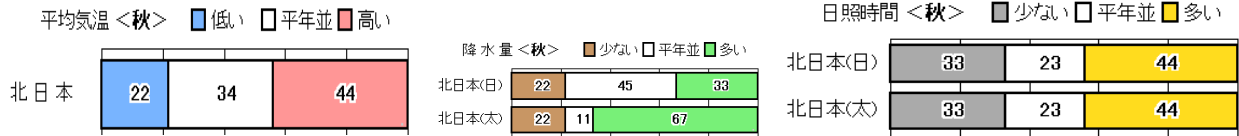
- ・向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 50%です。
- ・1 週目は、高い確率 60%，2 週目は、平年並または高い確率とも 40%です。

(2) 東北地方の 3 か月予報

- ・期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。
- ・8 月一天気は数日の周期で変わり、気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。
- ・9 月一数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。
- ・10 月一数日の周期で変わるでしょう。

(3) エルニーニョが 9, 10 月に起きた場合の傾向

- ・平均気温は、北日本で高い傾向があります。
- ・降水量は、北日本太平洋側では多い傾向があります。
- ・日照時間は、北日本太平洋、日本海側とも多い傾向があります。



3 生育状況

- ・8月4日現在、約55,795ha(水稲作付見込み面積の78.32%)で出穂が確認されている。
- ・県全体の出穂期(水稲作付見込み面積の50%が出穂)は8月2日で平年より5日早い。

①地方振興事務所・地域事務所別

地区名	水稲作付見込み面積 (ha)	8月4日現在出穂状況			進行月日			(参考)平成25年度		
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)	出穂始期	出穂期	穂揃期	出穂始期	出穂期	穂揃期	
大河原	7,544	4,831	64.0	7/30	8/2	—	7/29	8/5	8/13	
仙台	12,726	6,777	53.3	7/30	8/4	—	8/5	8/8	8/16	
大崎	20,341	19,120	94.0	7/29	8/1	—	8/3	8/5	8/12	
栗原	10,358	7,457	72.0	8/1	8/3	—	8/3	8/6	8/15	
登米	11,404	10,050	88.1	7/30	8/1	—	8/3	8/5	8/12	
石巻	8,233	7,340	89.2	7/29	7/31	—	8/3	8/7	8/14	
気仙沼	779	220	28.2	8/2	—	—	8/8	8/11	8/15	
県計	71,385	55,795	78.2	7/30	8/2	—	8/3	8/6	8/14	

②地帯区分別

地帯区分	水稲作付見込み面積 (ha)	8月4日現在出穂状況	
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)
山間高冷	1,108	388	35.0
西部丘陵	6,122	4,285	70.0
北部平坦	47,969	40,974	85.4
南部平坦	6,080	4,425	72.8
三陸沿岸	1,509	716	47.4
仙台湾沿岸	8,597	5,007	58.2
県計	71,385	55,795	78.2

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稲作付見込み面積の5%、50%、95%以上が出穂した日である。
 ※平成26年作付見込み面積は、農産園芸環境課でとりまとめた主食米の作付見込み面積を用いた。

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	7月30日	8月2日	—
前年	8月3日	8月6日	8月14日
平年	8月4日	8月7日	8月12日
平年差	5日早い	5日早い	—

※平年値は平成16～25年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値を用いた。

表-1 県内の水稲出穂状況 (宮城県 8月4日調査)

4 今後の管理

(1) 水管理

- ・登熟期は間断かん水が基本で、水分不足は、充実不良等の品質低下につながる。
- ・秋の刈取作業を考慮した土壌の乾かしすぎに注意する。
- ・中干しが十分に実施できなかった場合には、足跡に水が残る程度の飽水管理を行う。
- ・出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと、白未熟粒の発生による品質低下が生じやすい。
- ・今後も高温傾向が続くことが予想されるので、土壌の乾かしすぎには十分注意する。
- ・最高気温が30℃、夜温が23℃以上のとなる場合には、走り水が品質低下に有効である。

※【昼湛水・夜落水で5～6℃は気温より低下する。】

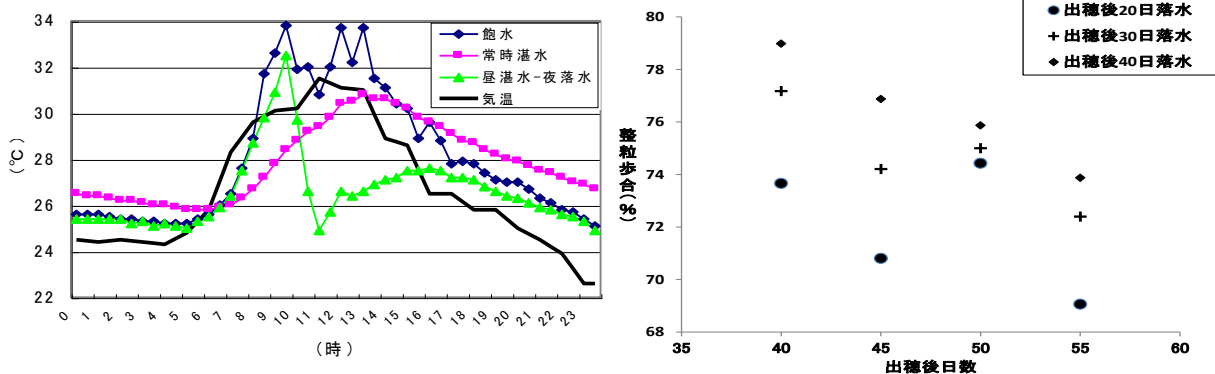


図-2 水管理と地表面の温度

落水時期と整粒歩合

(2) 穂いもち [宮城県病害虫防除所 発生予報第7号]

発生時期：やや早い（8月11日～15日）
 発生量：やや多

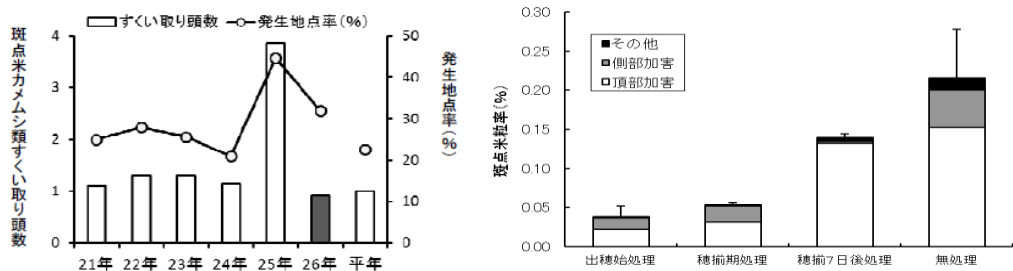
- ・葉いもちの発生地点率がやや高く、関係機関から、発生程度の高い圃場の報告がある。
- ・感染好適日の推定(BLASTAM)で、好適条件が7月中旬以降、県全域で頻発している。
- ・上位葉での葉いもちが多くなる可能性があり、平均気温20～25℃、曇りや雨の日が多いことが好適である。
- ◆穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、防除適期を逸しないように防除する。
- ◆茎葉散布する場合、1回目（出穂直前）2回目（穂揃期）多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く時は、3回目（穂揃期の7～10日後）に防除する。



(3) 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

発生時期：やや早い（8月1日～8月5日）
 発生量：多い

- ・巡回調査で、本田内にホタルイの残草ほ場の割合が、51.4%と平成22年以降最も高かった。
- ・発生地点率は31.9%で平年（22.5%）より高かった。
- ・牧草地のは全調査地点でカメムシ類が確認された。ホタルイ類幼虫は、発生地点率は53.6%であった。
- ◆水田畦畔や雑草地の草刈りは、出穂10日前までに終わる。
- ◆出穂期以降の防除対策（薬剤防除）
- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本である。
- ・ホタルイ類、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早める。



図一3 7月中旬本田のカメムシ類と発生地点率 ホタルイ発生時の薬剤防除時期と斑点米粒率